

《入選》

人権を大切にする

鳥居本中学校 三年

小崎 愛音 さん

人権を大切にしないさい。これは私が生きてきた中で何度も耳にした言葉だ。私はこの言葉を聞いたたび具体的に人権を大切にすると、どのようなことなのだろうかと考える。いじめをしない、差別をしない、人の意見をちゃんと聞く、否定しないなど沢山の考えがあるだろう。だがやはり一番大切なのは、相手を思いやり、知ろうと思う気持ちなのではないのだろうか。私は思う。私達学生にとって一番身近な人権問題、いじめを例に考えてみる。

いじめには、自分がいじめをしていると自覚のある人間と、知らず知らずのうちに

いじめをしてしまっている、自覚のない人間が存在する。両方とも相手の気持ちを考えていないからこそ生まれるものだと私は思う。自覚をもっていない者はその行動が相手を傷つけるとわかっていながらも、自分の感情をコントロールすることができず、正しい判断がとれなくなっているのだろう。大人ですら自分の感情をコントロールできない人がたくさんいるのだ。子供ながらに自分の感情をコントロールできる人間などゼロに等しいだろう。だが、そこで感情をコントロールすることができないと、あきらめてはいられない。いじめが減ることはない。そのときに、「これをいつたら相手はどう思うのだろうか」と一歩踏みとどまって相手の気持ちを考えることが大切なのである。そう考えられることにより、感情がコ

ントロールできずに相手を傷つけてしまう人も、いじめによって傷つけられている人もおのずと減っていくのではないのだろうか。自覚のない人間であつてもそうだ。日頃から相手の気持ちを考え、相手を知ろうとする事が相手の人権を大切にし、知らず知らずのうちにしまっているいじめを減らすことに繋がるのである。正直すべての人間の人権を守ることは難しい。人権はすべての人間に平等ではあるが公平ではないからだ。生まれた環境や人間関係、その人の性格によって傷つく度合いが変わってくる。一人一人傷つくラインはばらばらだ。だからこそ相手を知ることが大切なのだ。相手を知り大切にすることが相手の人権を大切にすることに繋がるのだと私は思う。

人権を大切にしないさい。難しいことのようにその真意は意外と単純なものだ。相手のことを思いやり、知ろうとする気持ちさえあればいじめをする人もいじめられて苦しい思いをする人も減っていくだろう。私もこの十五年間、沢山の人を傷つけてきた。私が知らないだけでもっと多くの人を傷つけてきたと思う。その傷が完全に完治する事は絶対にない。実際にその苦しさを体験してきたからこそ私にはわかる。自分がこれ以上加害者にならないために、一つ一つの発言に責任をもち、相手を思いやり知ろうとすることを心掛け良好な人間関係を築いていきたい。